

戦後 80 年 平和の種をまく

長沼町図書館

図書館の特集コーナーで展示、貸出しています。一部のご紹介です。

昭和 20 年 8 月 15 日 文化人たちは玉音放送をどう聞いたか

中川右介著 NHK出版

作家、映画監督、俳優、音楽家、歌舞伎役者、マンガ家ら総勢 135 人の敗戦体験を、膨大な資料に基づいて描き出す。

ルポ戦争トラウマ 日本兵たちの心の傷にいま向き合う

後藤遼太・大久保真紀著 朝日新聞出版

元日本兵の子や孫が、ようやく語り始めた「戦争トラウマ」。隠された戦争の実相に迫る。

世界の力関係がわかる本 帝国・大戦・核抑止

千々和泰明著 筑摩書房

勝てそうだからやる?やられる前にやる?戦争が起きる理由がわかれば、平和に一步近づける!世界の国々の力関係から戦争と平和を考える、未来を生きるための国際政治学入門。

僕らは戦争を知らない 世界中の不条理をなくすためにキミができること

小泉悠/監修 Gakken 2024/2

戦争が起こる理由や日本が過去に行った戦争などをイラストをまじえてわかりやすく解説し、争いのない世界にするためにできることを伝えます。



荷風たちの東京大空襲 作家が目撃した昭和二十年三月十日

西川清史著 講談社

永井荷風、谷崎潤一郎、向田邦子ら、東京に住んでいた文士たちが日記や文章の中に書き残した、東京大空襲の凄まじい体験を紐解く。



くらげのパポちゃん

かこさとし文・中島加名絵 講談社

祖父・かこさとしから、孫・中島加名へ受け継がれた平和への想い。戦争に行く途中、南の海で亡くなった少年の父親のことを知ったくらげのパポちゃんは、父親の行方を探しに大海原へ…。没後見つかった未発表の原稿を絵本化。



ひとのなみだ

内田麟太郎文 nakaban 絵 童心社

ロボットが戦争に行く世界で、ぼくたちは安心して暮らしているはずだった…

非戦と平和への願いを込めて、詩人内田麟太郎が近未来を描く
日本絵本賞受賞作品



やくそく ぼくらはぜったい戦争しない

那須正幹さく 武田美穂え ポプラ社

「にいちゃん、おかえり」
ばあちゃんはぼくのことを原爆でしんだ
“にいちゃん”とまちがえる。

3歳のときに広島で被爆し、生涯をかけて平和を訴え続けた児童文学作家那須正幹が遺した物語。

絵は『ねんどの神さま』でコンビを組んだ武田美穂。



Garden 8月9日の父をさがして

森越智子作・大野八生絵 童心社

被爆地で生き抜いてきた父の思いと隠し続けられたぼくの名前のひみつ。やがて解き明かされる真実にたどり着いたとき、ぼくは……。

長い時を経て、原爆被爆者の言葉にできなかった思いが、今、静かに胸に迫る。

